成果指標設定調書

【成果指標の設定】

成果指標設定年度

令和元年度

市町村名	志木市			
提案事業名	「商都しき」再興プロジェクト			
事業期間	令和2 年度	～	令和3 年度	
事業の必要性、目的	駅前から市の中心部へと続く新たな人の流れを創出し、かつて東上線沿線随一のまちといわれた志木のにぎわいを取り戻すため「地域活性化」と「シティプロモーション」という2つの柱を軸に、市の魅力向上につながる事業を展開することにより、定住人口の増加と市外から訪れる交流人口の増加を目指す。			
成果指標	(成果を検証する指標) 定住人口に交流人口を加えた「地方創生人口」の増加			
	(成果検証の具体的な方法) 定住人口・・・住民基本台帳人口 交流人口・・・志木駅、柳瀬川駅の1日平均定期外乗降客数			
	(上記の指標を設定した理由) 中心市街地の活性化により商店会等が増加し、利便性が良くなることで定住人口が増加する。また、地域活性化策による魅力向上を行うことにより、市外から志木を訪れる人口、いわゆる交流人口が増加する。そして、交流人口の増加により志木の認知度が向上することで、住んでみたい、住み続けたい選ばれるまちとなる。このような好循環を表す指標として、定住人口と交流人口の合計を、「地方創生人口」として採用することとした。			
	なお、定住人口としては、端的に住民基本台帳人口を採用する。 また、交流人口としては、日常的な通勤や通学以外の目的で駅を利用する、定期外乗降客数を採用する。			
	(成果の目標値)			
	現状値 (平成30年度)	118,823	目標値 (令和2年度)	119,718
	(施設建設等の場合)			
年間利用者数(目標)(人)		稼働率(目標)(%)		
住民への公表方法及び特記事項				

【成果指標と構成事業の関連性】

令和2年度 構成事業

構成事業名	概要・成果指標との関連性	事業費(千円)
① いろは親水公園の魅力倍増事業	ハードソフト いろは親水公園に民間活力を導入して再整備を行うことで、公園利用者の増加を図ることができるとともに、志木駅東口からいろは親水公園までの人の流れを創出することができ、中央通停車場線の沿道の活性化につなげることができる。	29,000
② 市制施行50周年記念事業【記念メディア作成】	間接補 市制施行50周年を契機として、PR動画の作成を通じたシティプロモーションを実施するとともに、志木の伝統文化による地域活性化を行うなど、市外から来訪者を呼び込むとともに、市民には志木市の魅力の再発見を促し、シビックプライドの醸成を行うことで定住意向を高めることができる。	5,754
③ 市制施行50周年記念事業【ご当地グルメの開発】	間接補 新たなご当地グルメを開発し、市内外にPRすることで、飲食店の活性化につなげることができるとともに、市外からの来訪者を増やすことができる。	682
④	ハードソフト 間接補	
合計		35,436

【成果指標の達成見込み】

目標達成のための具体的な方策	広報紙やホームページなど広報媒体を活用した情報発信と、志木駅東口周辺にぎわいづくり協議会など関係機関と連携を図りながら効果的に実施していく。
成果指標の達成見込み	上記方策により、指標を十分達成できると考える。

(記入上の注意)

【成果指標の設定】

・住民への公表方法は具体的に記述すること

【成果指標と構成事業の関連性】

・提案事業を構成する各事業(構成事業)について次のとおり分類すること

「ハード」 施設建設等が中心の事業(ハード事業)。

「ソフト」 主に人的要素を活用した活動でハード事業以外の事業(ソフト事業)。

「間接補」 青年会議所、商工会議所・商工会、自治会、NPO等の公共的団体が実施する事業
に対して市町村が補助金を交付するもの(間接補助事業)。

・事業費は補助金を要望する単年度の事業費のみ記入すること。また、間接補助事業の場合には、
事業費の下に()書きで、市町村の負担額又は補助額を記入すること。